

浜松市学校施設長寿命化計画について

1 計画の目的と位置付け

(1) 目的

「浜松市公共施設等総合管理計画」及び「浜松市公共建築物長寿命化指針」に基づき、一斉に大規模改修や更新時期を迎える市が保有する学校施設（小・中学校）の長寿命化を図り、長期的なコスト縮減及び予算の平準化、並びに安全安心な教育環境の提供を目的とする。

(2) 計画期間 令和 2 年度から令和 6 年度まで（5 年間）

(3) 対象施設 校舎、体育館、武道場、給食室

2 背景と課題

- ・ 平成 20 年度をピークとした人口増加に対応するため多くの学校が建設され、更に市町村合併により多くの学校がある。
- ・ 老朽化の目安と言われる築 40 年以上経過する建物の延床面積の割合が、令和 6 年度には約 69%に達する。
- ・ 既に多数の設備機器が更新時期を超過
- ・ 改修・更新時期の一極化が懸念される。

3 概要

(1) 基本方針（「浜松市公共建築物長寿命化指針」に倣う。）

- ① 建物の目標使用年数を 80 年とし、計画的な改修を実施する。
- ② 建築物に不都合が生じた後に改修を行う「事後保全」から異常の兆候を事前に把握・予測して計画的に改修を行う「予防保全」の転換を図る。
- ③ 改修時期集中が懸念されるため経費を軽減及び平準化

(2) 小規模改修と大規模改修

- ① 小規模改修は概ね築 20 年もしくは部位の更新周期を目途に改修又は設備更新
- ② 大規模改修は概ね築 40 年を目途に改修又は更新

(3) 計画期間内の取組み

- ・ 小規模改修は、主に更新時期を超過した基幹設備の更新を行う。
- ・ 大規模改修等を盛り込んだ各学校の個別計画策定及び実行のための体制づくりを行う。

浜松市学校施設長寿命化計画 概要版

1 計画の目的と位置付け

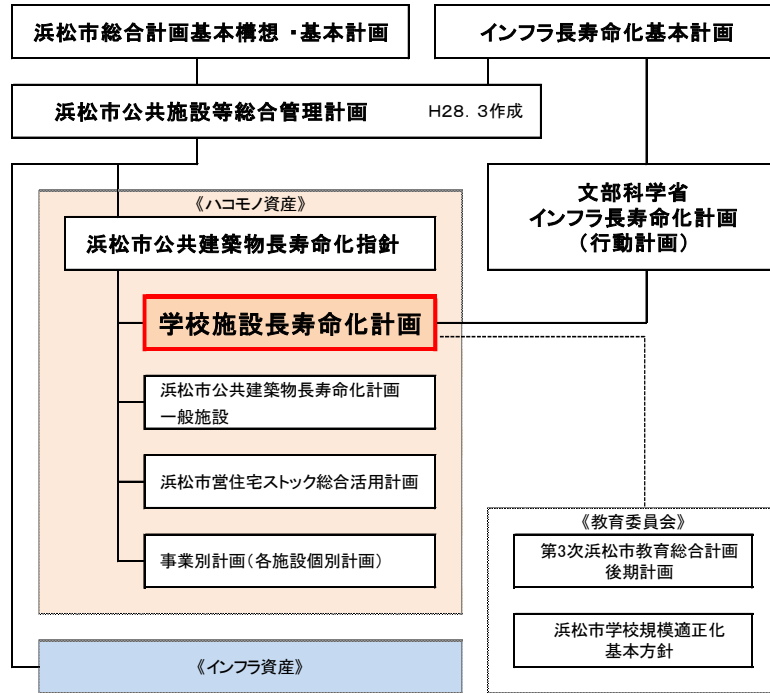
【目的】

「浜松市公共施設等総合管理計画」及び「浜松市公共建築物長寿命化指針」に基づき、一斉に大規模改修や更新時期を迎える市が保有する学校施設（小・中学校）の長寿命化を図り、長期的なコスト縮減及び予算の平準化、ならびに安全安心な教育環境の提供を目的とする。

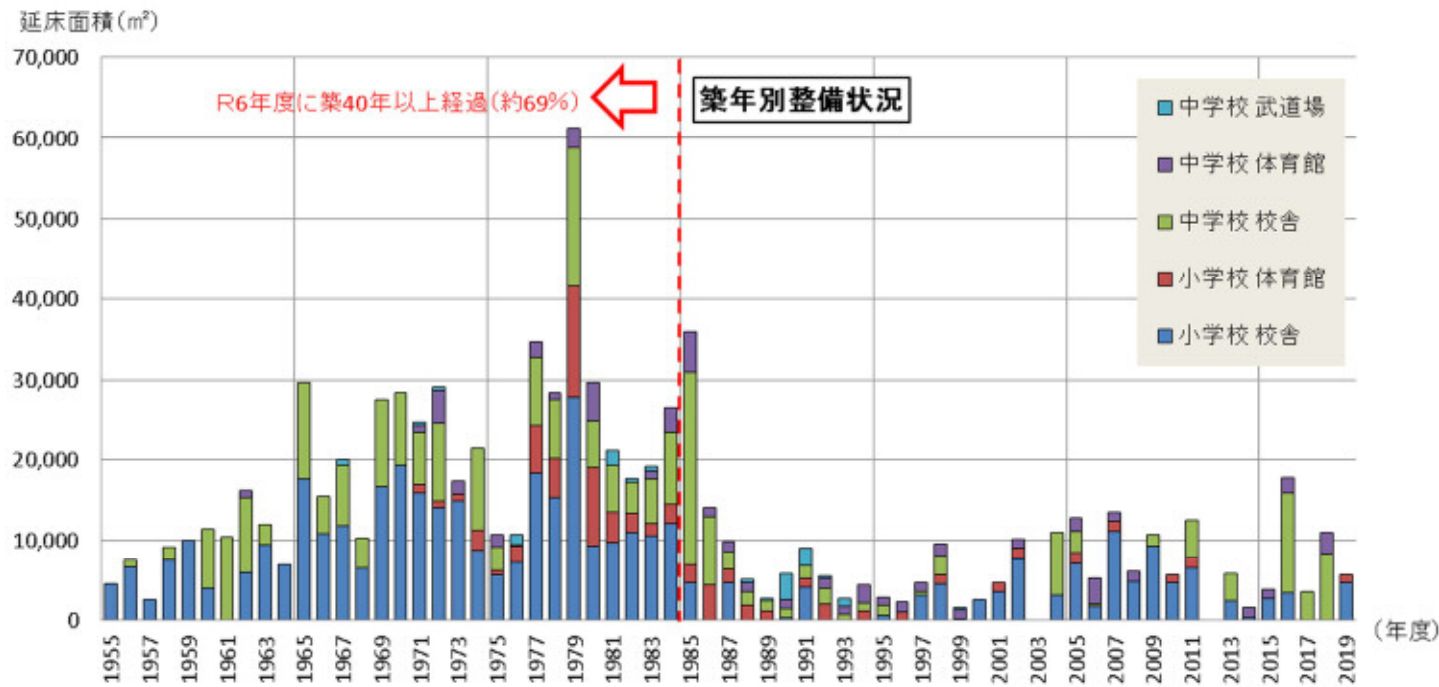
【計画期間】 令和2年度から6年度までの5年間

【対象施設】 校舎、体育館、武道場、給食室

【位置付け】



2 背景と課題



【参考】 建築後40年以上経過した建物（R7年3月想定）

		小学校		中学校		全体	
		延床面積(㎡)	棟数(棟)	延床面積(㎡)	棟数(棟)	延床面積(㎡)	棟数(棟)
40年以上経過	延床面積(㎡)	372,594	75%	201,261	60%	573,855	69%
	棟数(棟)	207	75%	133	55%	340	65%
	学校数(校)	84	90%	42	88%	126	89%
全体	延床面積(㎡)	496,793		337,067		833,860	
	棟数(棟)	277		244		521	
	学校数(校)	93		48		141	

※ 小中一貫校は中学校としてカウント
※ 分校は除く。

◆ポイント

- ・平成20年度をピークとした人口増加に対応するため多くの学校が建設され、更に市町村合併により多くの学校がある。
- ・老朽化の目安と言われる築40年以上経過する建物の延床面積の割合が令和6年度には約69%に達する。
- ・既に多数の設備機器が更新時期を超過
- ・改修・更新時期の一極化が懸念される。

3 方針

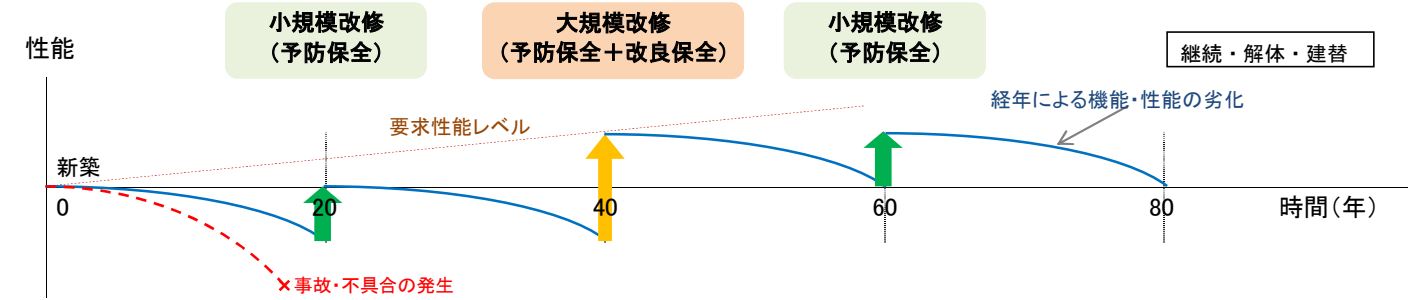
【これまでの長寿命化】

- ・劣化状況により外壁・防水（屋根）改修＝機能水準を確保する最低限の部位
- ・築年数の古い施設から大規模改修

◆ポイント

- ・建物の目標使用年数を80年とし、計画的な改修を実施
- ・「事後保全」から「予防保全」への転換
- ・改修時期集中が懸念されるため経費を軽減及び平準化

長寿命化のため必要水準のイメージ図（目標使用年数80年）



4 小規模改修

【概要】

- ・概ね築20年もしくは部位の更新周期を目途に改修又は設備更新
- ・建築物の寿命や機能維持に大きく影響する部位（外壁・屋根・基幹設備）を優先的に改修又は設備更新

区分	種別	主な部位	主な内容
小規模改修	建築	外壁	外壁落下防止、塗装、シーリング打替え
		屋根	屋根・屋上防水改修
	設備	設備（盤類・配線類・配管類）	設備更新
		受変電設備	設備更新
		電話設備	設備更新
		自動火災報知・非常放送設備	設備更新
		空調機 管理諸室・給食室	設備更新
		ポンプ類 給水ポンプ	設備更新
		消火栓ポンプ	設備更新
		基幹設備	

◆ポイント

- ・更新時期を超過した基幹設備の更新を5年間で実施（緊急設備更新）
- ・将来統廃合が想定される学校は小規模改修のみを実施する。

5 大規模改修

【概要】

- ・劣化度調査を実施し、概ね築40年を目途に評価が悪い順に改修又は更新
- ・耐力度調査及び将来人口推計等により、工事手法を決定



区分	事業内容
長寿命化改良	既存施設のスケルトン化→施設の改良による長寿命化対策（躯体の劣化防止、内外装・設備更新、教育環境の改善と向上）
大規模改造	内外装・設備更新

◆ポイント

- ・大規模改修は各学校の個別計画に基づき実施
- ・小中一貫校の検討

6 事業計画

【計画期間5年間の事業費】

事業費		（百万円）			
		小学校	中学校	計	年平均
小規模改修	外壁・屋根・設備等	1,838	876	2,714	543
	緊急設備更新	3,405	1,632	5,037	1,007
計		5,243	2,508	7,751	1,550

※ 事業費は事業実施段階において変更となる可能性有り

◆ポイント

- ・更新時期を超過した基幹設備の更新（緊急設備更新）
- ・各学校の個別計画策定及び実行のための体制づくり